

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 5 月 15 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K08869

研究課題名(和文) 診療の質評価と共感への認識探索を通じた医師の共感に関する自己評価再検討

研究課題名(英文) Reconsideration on self-assessment of empathy through measuring quality of consultation and exploring recognition on empathy

研究代表者

高橋 徳幸 (Takahashi, Noriyuki)

名古屋大学・医学系研究科・寄附講座助教

研究者番号：00758732

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：医師の共感の経年低下という定説を本研究では再検討した。量的に、我々が開発した患者の視点から医師の共感を評価するCARE Measure日本語版の評価者間信頼性(患者何名から質問紙を回収すればその医師の共感を適切に評価できるか)を検証した。その結果質問紙40枚で一定の評価者間信頼性が確保されることが判明した。質的に、既に我々は医学生・初期研修医への探索で「共感の量的減少ではなく質的变化」を示したが、本研究では専攻医の共感に関する認知構造を、共感を重視する総合診療科に着目して探索した。その結果専攻医は臨床経験によって認知的共感を獲得し、専攻医自身の私的経験によって感情的共感も行うことが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

量的には、患者の視点から医師の共感を評価するCARE Measure日本語版の評価者間信頼性が明らかになり質問紙の実用性が向上した。これは本質問紙を用いた介入研究や、他医療職種での質問紙使用の妥当性評価研究への発展性や、本質問紙を医師の臨床実践や教育に生かす応用可能性を持つ。社会的には、医師の共感に関する患者視点での評価をより実用的に行うことができる意義がある。質的には、専攻医についても共感単に量的減少するのではなく、新たに獲得され育まれていることが示唆され、定説に一石を投じる学術的意義がある。そして専攻医の共感認識を理解することで専攻医教育や専攻医自身の臨床実践に生じうる社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：In this research, we reconsidered a generally accepted opinion, which is physician's empathy decreasing with getting clinical experiences. Quantitatively, we analyzed how many patients were required to provide a high level of reliability in the Japanese version of the Consultation and Relational Empathy (CARE) Measure. The result revealed approximately 40 patients were needed. Qualitatively, we aimed to identify how specialty trainees in general practice (GP trainees) perceive empathy. It hasn't been clear how specialty trainees perceive empathy, although students' and residents' empathy do not decrease quantitatively but change qualitatively with getting clinical experience. The result showed that GP trainees improved cognitive empathy based on clinical experiences, and improved emotional empathy by their own patient experiences.

研究分野：総合診療医学

キーワード：共感 CARE Measure 評価者間信頼性 総合診療科専攻医 共感の認識構造 質的探索

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

医師の共感的態度醸成の必要性が叫ばれて久しい。医師の共感的態度は患者満足度だけでなく治療効果にも影響する[1]。共感には多彩な定義があるが、「相手の感情や考え方を、もし自分がその人であればと考へ、理解すること[2]」や「相手の複雑な心理の状態を受け止めるように調整する認知的能力」[3]とされる。共感的態度は患者中心的医療を構成する重要な要素であり[4]、本邦でも 2004 年に医師臨床研修制度が見直され、患者を全人的に理解することが臨床研修の行動目標「医療人として必要な基本姿勢・態度」(厚生労働省医政局)として位置づけられている。しかし共感的態度は卒前・卒後ともに経年的に低下することが定説となっているため[1]、国際的にも医学生・医師の共感を促進する様々な学習方略が提唱されている[5]。一方で共感の経年低下は自記式評価票による根拠[6]に基づいている。患者医師関係において医師が示した共感を受け止める患者がどのように感じたかが重要だが、自己評価と他者評価の相関は低い[7]にも関わらず「医師の共感の経年的低下」に関して、共感の受け取り手である患者の視点からの検証は行われていない。さらに我々は、医学生および初期研修医へのインタビューによる質的探索的研究から、学年・年次が進む毎に共感が低下するのではなく、用いる共感の要素が変化する可能性を示した[8]。よって医師の共感が経年的に低下するとは一概にいえない可能性があり、我々はこれを量的検証・質的探索の両側面から検討すべき課題と考えた。

2. 研究の目的

本研究課題の申請時、本研究は、下記の二点を目的とした。

- (1) (量的研究) 我々が開発した患者の視点から医師の共感を評価する **Consultation and Relational Empathy (CARE) Measure 日本語版 (J-CARE)** を踏まえて作成された、医師の診療の質を患者の視点から評価する尺度 **The Consultation Quality Index 2 (CQI-2) 日本語版** の信頼性・妥当性検証を行った上で患者の視点から医師の共感と診療の質について評価することとした。
- (2) (質的研究) 近年我々は医学生・初期研修医への質的探索により「共感の量的減少ではなく質的变化」の可能性を示したが、専攻医・指導医についても共感に関する認知構造を質的に探索することで、共感の認知構造に関する新たな経年的変化モデルを構築することとした。

3. 研究の方法

(1) (量的研究) **CQI-2 日本語版** の検証に先立ち、**J-CARE** の評価者間信頼性に関して明らかにされていないことが明らかになったため、本研究で検討を行った。**J-CARE** は 10 項目の質問による、評価不能を含めた **6 points Likert scale** からなる質問紙であり、Aomatsu らによって日本語版の妥当性検証がされた[9] (**CARE Measure 日本語版** サイト <https://caremeasure.meidai-soushin.net> からフリーダウンロード可能)。**J-CARE** の評価者間信頼性とは「一人の医師に対して何人の患者から質問紙票を回収することでその医師の共感を適切に評価することができるか」を意味する。これは **J-CARE** の実用性に影響することから、先行研究のデータセット[9][8]を用いて二次データ解析を行なった。データセットには、2011 年に名古屋大学医学部附属病院総合診療科で外来診療を行った総合診療医 9 名を対象にし、合計 317 名の患者から収集した **J-CARE** 得点に関するデータが含まれていた。317 名の内 **J-CARE** の 10 項目の質問にすべて回答した 252 名の患者のデータを用いた。総合診療医 9 名の臨床経験は 6 年から 33 年であった。まず、医師間の総得点の区別のための信頼性検討のために一元配置分散分析を用いて級内相関係数(一般化可能性理論の G 係数に相当)を検討した。そして級内相関係数 0.8 以上を基準にして一般化可能性理論の決定研究 (**Decision study, D 研究**) を行い、必要な質問紙数を推測した。

(2) (質的研究) 本研究では専攻医について共感に関する認知構造を質的に探索した。特に、患者との信頼関係構築のためのコミュニケーションスキルとして共感を重視する総合診療科に焦点を当て、そこで研修をする専攻医に対して質的探索を行った。2017 年度に 2 回のフォーカスグループを行い、2018 年度に 2 名の専攻医に対して個別インタビューを行なった。専攻医は特定の総合診療後期研修プログラムに所属する 8 名 (1 年目 4 名、2 年目 1 名、4 年目 3 名、このうち 1 名はフォーカスグループと個別インタビューの双方に参加しており重複あり) が便宜的抽出法によって選択された。この際の便宜とはリクルートの容易性を意味した。インタビューは逐語録化され、質的データ分析手法 **Steps for Coding and Theorization** [10]によって分析された。分析的枠組みに、**Morse (1992) [11]**による共感の四要素を用いた。共感の四要素とは、以下によって示される。1)感情的: 他者の心理の状態や感情や本質的な感情を主観的に経験したり共有したりする能力、2)道徳的: 共感を実践するための内的な圧力、3)認知的: 他人の感情や視点を客観的な立場で理解したり同定したりする知的な能力、4)行動的: 共感的な理解や関心を伝える能力、である。

4. 研究成果

(1) (量的研究): **J-CARE** の評価者間信頼性を検討するために 38 枚以上の質問紙票を回収する必要があることが明らかになった (図 1)。これは過去に他国で検討された数値と比較しても妥当な値であった。本研究によって、**J-CARE** 質問紙の実用性が向上した。これは本質問紙を用いた介入研究や、他医療職種での質問紙使用の妥当性評価研究への発展性、そして本質問紙を医師

の臨床実践や教育に生かすという応用可能性を持つ。また、本研究結果を社会的に周知するために、J-CARE の学術リポジトリ登録によるウェブ公開とホームページ作成 (CARE Measure 日本語版サイト, <https://caremeasure.meidai-soushin.net>) についても本研究計画内で行っており、これも研究成果の一つである。

結果 D 研究 38人以上で級内相関係数 0.8

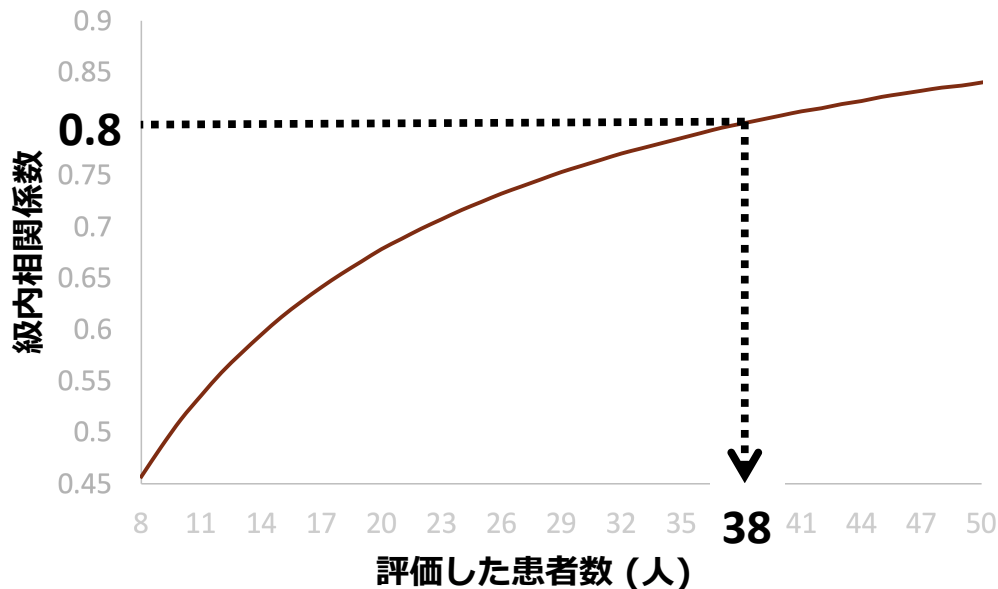


図 1.J-CARE に関する評価者間信頼性検討 (松久貴晴ら. 第 9 回日本プライマリケア連合学会学術大会 2018 発表資料より一部改変)

(2) (質的研究) : 総合診療科専攻医は臨床経験によって認知的共感を獲得し、それを主に用いながらも、専攻医自身の出産といった私的経験によって感情的共感をも行っていることが明らかになった (図 2)。総合診療科専攻医は共感を良好な患者医師関係を築く上で必要不可欠と考えていた(道徳的)。そして過去の患者との会話、患者へ先輩医師への振る舞いや助言という臨床経験に基づいて客観的に患者に共感した (認知的)。一方で専攻医自身が患者体験を有する場合、また妊娠・出産・育児などのライフイベントを体験した場合、専攻医は自身の体験に基づいて主観的に患者に共感した (感情的)。これらの感情的・認知的共感は直ちに患者に示された (行動的)。しかし専攻医の精神的もしくは身体的な疲労や医学的に説明困難な身体症状 (Medically Unexplained Symptom; MUS) によって感情的共感が抑制され、さらに認知的共感からの行動的共感についても抑制された。本研究によって、総合診療科専攻医についても、単に共感の量的減少だけではなく、私的経験や臨床経験を通じて共感新たに獲得され育まれていることが示唆された。これは専攻医についても共感の量的減少という定説に一石を投じる意義がある。今後は総合診療科以外の専攻医の共感の認識構造に関する探索や、専攻医を修了し臨床実践を長く行っている指導医の共感の認識構造に関する探索が望まれる。また、専攻医の共感認識を理解することで専攻医教育や専攻医自身の臨床実践に活かすうる教育法略の開発が望まれる。

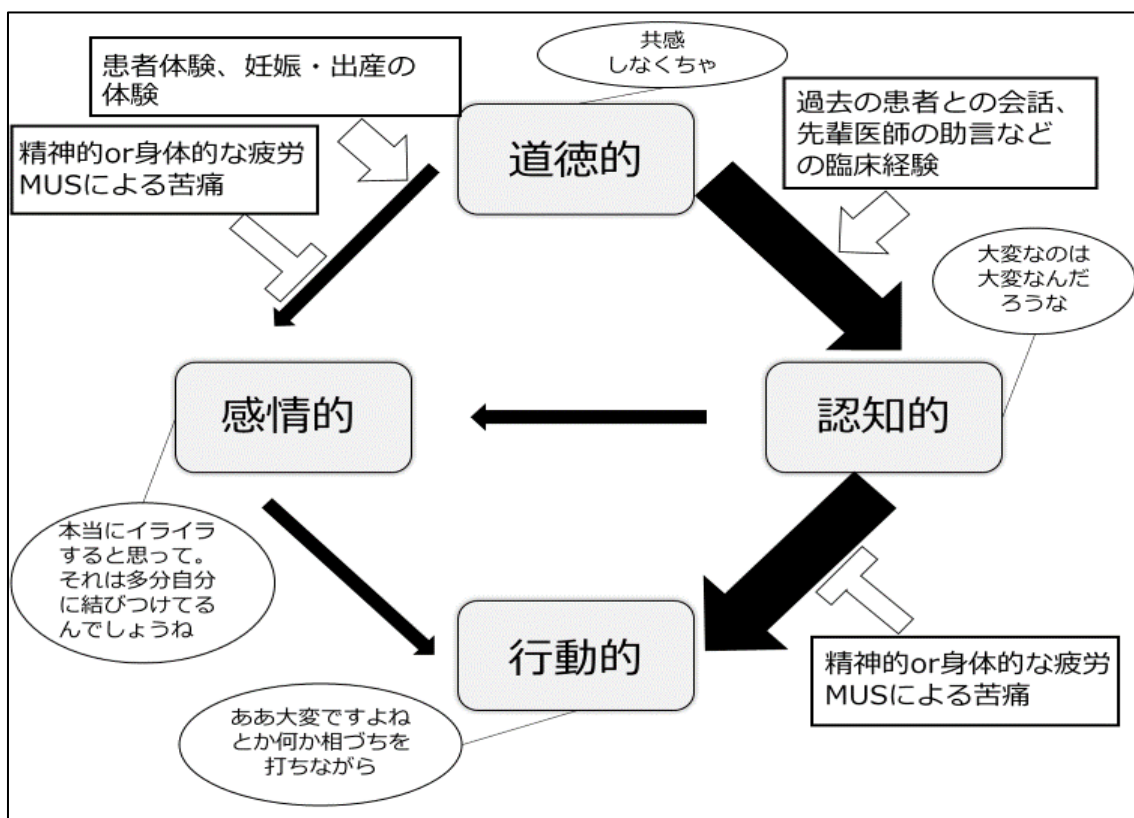


図 2. 総合診療科専攻医の共感の認識構造(黒い→は各要素の、他の要素への影響を示す。矢印の太さは影響力の大きさを表す。白い→は共感の促進因子を表し、白い⊥は阻害因子を表す。)(今来茜ら。第 10 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2019 資料より)

<引用文献>

1. Hojat, M., *Empathy in patient care: antecedents, development, measurement, and outcomes*. 2007, Springer Science & Business Media. p. 163-172.
2. Rogers, C.R., *A theory of therapy, personality, and interpersonal relationships, as developed in the client-centered framework*, in *Psychology: A Study of a Science. Study 1, Volume 3: Formulations of the Person and the Social Context* S. Koch, Editor. 1959, McGraw Hill: UK. p. 184-256.
3. Kohut, H., *Some therapeutic transformations in the analysis of narcissistic personalities*, in *The Analysis of the Self: a systematic approach to the psychoanalytic treatment of narcissistic personality disorders*. 1971, The University of Chicago Press: The United States of America. p. 296-328.
4. Stewart, M., et al., *Introduction*, in *Patient-centered medicine: transforming the clinical method*, M. Stewart, Editor. 2003, Radcliffe Publishing. p. 3-32.
5. Batt-Rawden, S.A., et al., *Teaching empathy to medical students: an updated, systematic review*. *Acad Med*, 2013. **88**(8): p. 1171-7.
6. Bellini, L.M., M. Baime, and J.A. Shea, *Variation of mood and empathy during internship*. *Jama*, 2002. **287**(23): p. 3143-3146.
7. Davis, D.A., et al., *Accuracy of physician self-assessment compared with observed measures of competence: a systematic review*. *Jama*, 2006. **296**(9): p. 1094-1102.
8. Aomatsu, M., et al., *Medical students' and residents' conceptual structure of*

- empathy: a qualitative study*. Education for Health, 2013. **26**(1): p. 4.
9. Aomatsu, M., et al., *Validity and reliability of the Japanese version of the CARE measure in a general medicine outpatient setting*. Family practice, 2014. **31**(1): p. 118-126.
 10. 大谷, 尚., *SCAT: Steps for coding and Theorization: 明示の手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法*. 2011.
 11. Morse, J.M., et al., *Exploring empathy: a conceptual fit for nursing practice?* Image J Nurs Sch, 1992. **24**(4): p. 273-80.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Matsuhisa Takaharu, Takahashi Noriyuki, Aomatsu Muneyoshi, Takahashi Kunihiro, Nishino Jo, Ban Nobutaro, Mercer Stewart W.	4. 巻 19
2. 論文標題 How many patients are required to provide a high level of reliability in the Japanese version of the CARE Measure? A secondary analysis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BMC Family Practice	6. 最初と最後の頁 138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12875-018-0826-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Takahashi Noriyuki, Aomatsu Muneyoshi, Saiki Takuya, Otani Takashi, Ban Nobutaro	4. 巻 18
2. 論文標題 Listen to the outpatient: qualitative explanatory study on medical students' recognition of outpatients' narratives in combined ambulatory clerkship and peer role-play	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BMC Medical Education	6. 最初と最後の頁 229
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12909-018-1336-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 高橋徳幸	4. 巻 3287
2. 論文標題 日本と異なる研究発表の場が知的刺激に 英国SAPC年次集会2018参加報告	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 週刊医学界新聞	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Ramsay Robin, Stanyon Maham, Takahashi Noriyuki	4. 巻 31
2. 論文標題 Social accountability across cultures, does the concept translate? An explorative discussion with primary care colleagues in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Education for Primary Care	6. 最初と最後の頁 66~70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1080/14739879.2020.1727780	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 Moeka Toyama, Noriyuki Takahashi, Aomatsu Muneyoshi, Mina Suematsu, Kentaro Okazaki, Nobutaro Ban, Masafumi Kuzuya
2. 発表標題 Senior Residents' Conceptual Structure of Empathy: A Qualitative Study.
3. 学会等名 47th Annual Scientific Meeting of the Society for Academic Primary Care 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Noriyuki Takahashi, Muneyoshi Aomatsu, Takuya Saiki, Takashi Otani, Nobutaro Ban
2. 発表標題 Listening to the patient: a qualitative exploratory study on peer role-play using outpatients' illness narratives.
3. 学会等名 47th Annual Scientific Meeting of the Society for Academic Primary Care 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takaharu Matsuhisa, Noriyuki Takahashi, Muneyoshi Aomatsu, Kunihiro Takahashi, Jo Nishino, Nobutaro Ban, Stewart W Mercer
2. 発表標題 How many patients are required to provide a high level of reliability in the Japanese version of the CARE Measure?
3. 学会等名 47th Annual Scientific Meeting of the Society for Academic Primary Care 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松久貴晴, 高橋徳幸, 青松棟吉, 高橋邦彦, 西野穰, 伴信太郎, Stewart W Mercer.
2. 発表標題 日本語版the Consultation and Relational Empathy(CARE) Measureの評価者間信頼性の検討.
3. 学会等名 第9回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋徳幸, 青松棟吉, 西城卓也, 大谷尚, 伴信太郎
2. 発表標題 外来患者の病の語りを用いた医療面接ピア・ロールプレイ実習に関する質的探索的研究.
3. 学会等名 第50回日本医学教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 富山萌香, 高橋徳幸, 青松棟吉, 末松三奈, 岡崎研太郎, 伴信太郎, 葛谷雅文
2. 発表標題 総合診療科専攻医の共感の認識構造: 質的研究.
3. 学会等名 第50回日本医学教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akane Imaki, Noriyuki Takahashi, Moeka Toyama, Muneyoshi Aomatsu, Mina Suematsu, Kentaro Okazaki, Nobutaro Ban, Masafumi Kuzuya
2. 発表標題 GP trainees' conceptual structure of empathy: a qualitative study.
3. 学会等名 48th Annual Scientific Meeting of the Society for Academic Primary Care 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今来茜, 高橋徳幸, 富山萌香, 青松棟吉, 末松三奈, 岡崎研太郎, 伴信太郎, 葛谷雅文
2. 発表標題 総合診療科専攻医における共感の認識構造: 質的探索的研究.
3. 学会等名 第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋徳幸
2. 発表標題 教育講演（医師向け）1「質的研究で「研究」ポートフォリオを作成する」：質的研究をポートフォリオに「落とし込む」際の注意点.
3. 学会等名 第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋徳幸
2. 発表標題 外来実習と外来受け持ち患者をピア・ロールプレイで演じる融合実習を通して浮き彫りになった、外来患者の語りについての医学生の認識：質的探索的研究
3. 学会等名 第35回医療コミュニケーション研究会.（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takaharu Matsuhisa, Noriyuki Takahashi, Muneyoshi Aomatsu, Kunihiro Takahashi, Jo Nishino, Nobutaro Ban, Stewart W Mercer
2. 発表標題 How many patients are required to provide a high level of reliability in the Japanese version of the CARE Measure?
3. 学会等名 47th Annual Scientific Meeting of the Society for Academic Primary Care 2018（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Moeka Toyama, Noriyuki Takahashi, Aomatsu Muneyoshi, Mina Suematsu, Kentaro Okazaki, Nobutaro Ban, Masafumi Kuzuya
2. 発表標題 Senior Residents' Conceptual Structure of Empathy: A Qualitative Study
3. 学会等名 47th Annual Scientific Meeting of the Society for Academic Primary Care 2018（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松久貴晴, 高橋徳幸, 青松棟吉, 高橋邦彦, 西野穰, 伴信太郎, Stewert W Mercer
2. 発表標題 日本語版 the Consultation and Relational Empathy(CARE) Measureの評価者間信頼性の検討
3. 学会等名 第9回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋徳幸、青松棟吉、伴信太郎
2. 発表標題 外来医療面接実習における新しい試み - 共感の評価尺度CARE measureによる学生の共感の促進
3. 学会等名 第48回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>CARE Measure日本語版サイト https://caremeasure.meidai-soushin.net 日本語版CARE Measure質問紙：患者による医師の評価表 http://hdl.handle.net/2237/00028334 名古屋大学医学部附属病院総合診療科ホームページ：大学院 https://www.med.nagoya-u.ac.jp/general/research/ 名古屋大学医学部附属病院総合診療科ホームページ：後期研修修了一大学院進学（松久貴晴先生） https://www.med.nagoya-u.ac.jp/general/research/matsuhisa/ 高橋徳幸-researcher map https://researchmap.jp/noriyuki_t_7/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	伴 信太郎 (Ban Nobutaro) (40218673)	愛知医科大学・医学部・特命教授 (33920)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	松久 貴晴 (Matsuhisa Takaharu) (80782101)	名古屋大学・医学部附属病院・病院助教 (13901)	
研究 協力者	青松 棟吉 (Aomatsu Muneyoshi)		
研究 協力者	高橋 邦彦 (Takahashi Kunihiko)		
研究 協力者	西野 穰 (Nishino Jo)		
研究 協力者	當山 萌香 (Toyama Moeka)		
研究 協力者	今来 茜 (Imaki Akane)		
研究 協力者	末松 三奈 (Suematsu Mina)		
研究 協力者	岡崎 研太郎 (Okazaki Kentaro)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	佐藤 寿一 (Sato Juichi)		
研究協力者	葛谷 雅文 (Kuzuya Masafumi)		